



図1. 池と *Potamogeton cheesemanii* の純群落



図2. *Potamogeton cheesemanii*

く、水面積の約70%を*Potamogeton*が覆う。

湖岸付近 一部低木が水面に張り出しているが、主に *Juncus* の1種が取り巻く

- 6、当該種 浮葉 葉柄長は葉身の2~6倍、托葉は細小密着、葉身は卵状長楕円形~広卵形、長さ3~5、幅1.5~3cm鈍頭 (図2)

全辺、表面鮮褐色~赤紫色、裏面淡褐色 (沈水葉については詳細観察困難)

花 花茎 3~7 cm、花序1.0~2.5 cm

花期 1月が盛期?

最も顕著な特徴は日本在来の種と異なり、葉身の表面が赤褐色を呈していること、浮葉の葉柄が著しく長いことなどである。

この種は角野康郎氏によれば、*Potamogeton cheesemanii* A. Benn. といひ、ニュージーランドとオーストラリアの一部にのみ分布する特異な種で、ニュージーランドでは浮葉性のヒルムシロはこの一種しかないということである。

終わりにご懇意なるご教示を頂いた神戸大学角野康郎氏に深甚なる謝意を表す。

(新潟市西小針台2丁目8-30)

柳井市の葉身・葉鞘に余り細毛のない チクゴスズメノヒエ 南 敦

1990年9月26日、山口県柳井市古開作山口県立柳井高等学校西側水路の上側小路や水路で幅約2~3m、長さ約20mにわたって群生しているチクゴスズメノヒエを見つけ小路のものを採集した。これは次のとおりである。稈はだ円形で長径約3.0mm、短径2.5~2.7mm。葉身の長さ約8.0~19cm、幅約8.0~12.0mm。

葉鞘の毛は、口部に約3.0mmの白色長毛、基部(節部)に約3.0mmの白色長毛。また、葉鞘の縁部に約4.0mmの白色長毛。しかし、葉鞘の背面にはルーペで見て、ごく短い微毛がある程度か、全くないものもかなりある。葉身には表裏とも全く毛はないか、または、下部(葉鞘口部辺り)の縁にのみ約3.0mmの白色の長毛をもつ。花序の総は3本と2本がほぼ1対3に混じる。1989年2月25日、同じ場所で採集したとき、葉身表面に細毛を密生し、葉鞘の方もルーペでよく見れば細毛があった(水草研究会報 No.35)。この細毛の状態は季節によって少し違って来るようである。また、株によっても若干違っている。いずれにしても柳井地方のチクゴスズメノヒエの細毛は著しく少ないようである。